

経営比較分析表（令和元年度決算）

福井県 小浜市

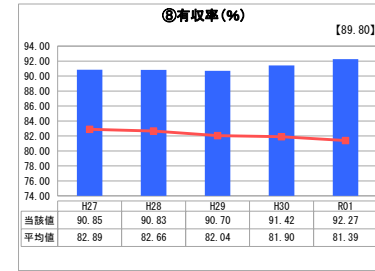
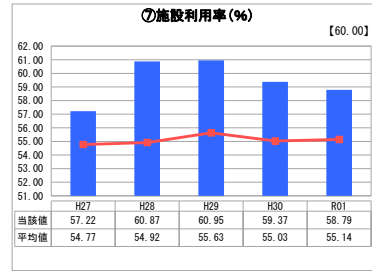
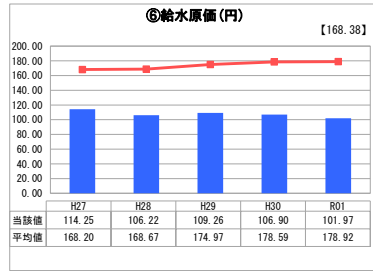
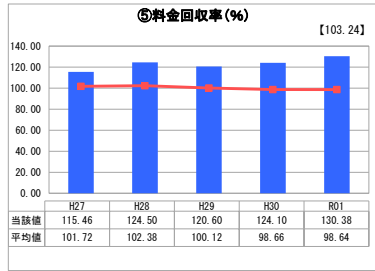
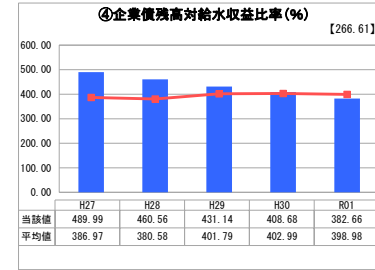
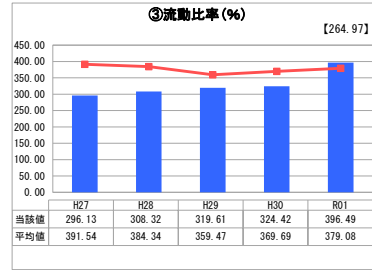
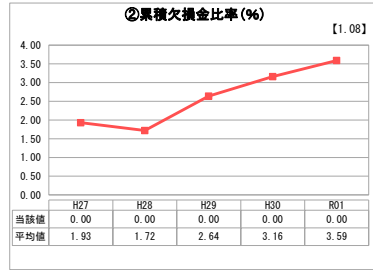
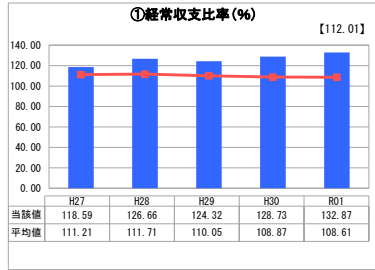
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)	
-	80.46	83.01	1,452	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,190	233.11	125.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
24,080	21.67	1,111.21

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：近年の経常収益に大きな変化はなく、経常費用が年々減少していることが、経常収支比率が上昇している要因である。今後も、同比率が100%以上となるよう努める。

② 累積欠損比率：主に工事請負費における未払金の減により、本年度から類似団体と同水準となった。今後も、同様の水準を維持できるよう努める。

③ 流動比率：主に工事請負費における未払金の減により、本年度から類似団体と同水準となった。今後も、同様の水準を維持できるよう努める。

④ 企業債残高対給水収益比率：年々企業債残高が減少するよう努めてきており、結果、当年度に類似団体より低い水準となった。しかしながら、今後控えている施設の更新等により、企業債の借入を予定していることから、企業債残高が増加しないよう、計画的な企業債の借入に努める。

⑤ 料金回収率：100%は超えているが、給水収益の減少や将来の施設等の更新による企業債の借入に伴う償還額の増加が予想され、これらを料金改定に反映し、より適正な水道料金の設定を行い料金の回収に努める。

⑥ 給水原価：類似団体と比較すると安価な水準であり、今後も、原価の抑制や漏水対策に努める。

⑦ 施設利用率：類似団体より高い水準であるが、約40%の余裕がある。今後も継続して、適正な施設規模を総合的に見極めていきたい。

⑧ 有収率：90%を超えており、目標数値に近くよう検針時や施設巡回時に注意深く確認し、また、各施設の配水量・有収水量を分析し、漏水による水量を抑制したい。

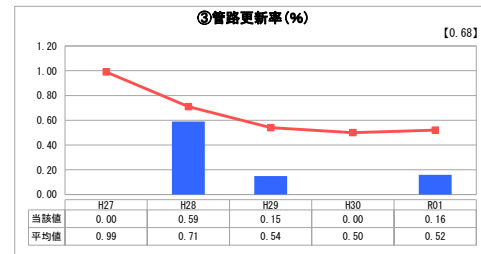
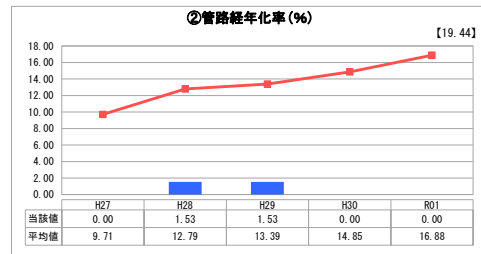
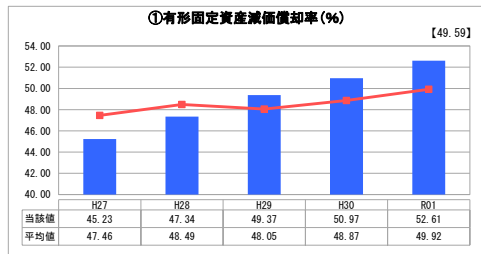
2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：約50%の水準であるが、年々施設の老朽化が進行しており、今後、給水人口の減少による収益の減少が予想される中、計画的な施設更新による事業運営をしていく必要がある。

② 管路経年化率、③ 管路更新率：管路経年化率については、下水道事業等の工事に伴い水道管の布設替工事を行ってきたことにより、全体的に比較的新しい管路を有している。このことにより、管路更新率については、類似団体と比較すると低い状況にある。

令和3年度に小浜市水道ビジョンに基づき「水道施設更新計画」の策定を予定しており、効率的かつ効果的な施設更新を進めていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

現状、経営状態については、概ね健全であると言えるが、人口減少や節水型機器等の普及や、漏水懸念の向上により、給水収益は年々減少することが予想される。これに伴い、経常収支の黒字が次第に減少することも予想される。

また、老朽化が進む施設や管路の更新については、「2. 老朽化の状況について」の分析のとおり、効率的かつ効果的な施設更新を進めていく。

R元に改定した「小浜市水道ビジョン」を基本とし、まずは、令和3年度に策定予定の「簡易水道統合基本計画」により、簡易水道の上水道への統合整備を進め、今後とも水道事業が安全・持続・強靱な事業運営を継続できるよう努める。